

令和2年 水稲収穫後圃場管理のチェックポイント

- ・ 根雪前の圃場管理（ステップ1～3）で乾田化を徹底し、乾土効果を活用しましょう！
- ・ 来年に向けて、圃場整備と土壌診断（ステップ4・5）を実施しましょう！

ステップ1 稲わらの搬出

- ◆ 稲わらは貴重な資源です。搬出して堆肥や飼料などに有効活用しましょう！（写真下）
- ◆ 稲わらの野焼きは、煙害（健康・交通）や産地への風評害の原因になります。絶対に行わないようにしましょう！
- ◆ 稲わら搬出は、いもち病発生圃場では菌密度を低減できます。

ステップ3 心土破碎の施工

- ◆ 心土破碎は、「圃場が乾いている時にできるだけゆっくりと施工する」がコツです。



ステップ2 溝掘りで表面排水の促進

- ◆ 溝は落水口につなぎ、表面水を圃場外に流すことが重要です！
- ◆ 表面水の除去により、圃場の乾燥が早まります。



ステップ4 あぜの補修

- ◆ 冷害危険期に、最大20cmの深水管理ができるしっかりとした畦に補修しましょう！



ステップ5 土壌診断の活用

- ◆ 高品質米の安定生産には、施肥の適正化が必須です。
- ◆ 土壌診断や圃場の生育を参考に、圃場ごとに施肥を見直しましょう！
- ◆ 土壌分析は、3～4年毎に行いましょう！

期待される乾田化の効果（翌年に向けて）

- 地温が上昇し、根の張りが良くなります
- 地耐力（土の硬さ）が増し、春先の機械作業が容易になります
- 乾土効果で地力窒素が早期に発現し、初期生育の促進と肥料の効率化が期待できます

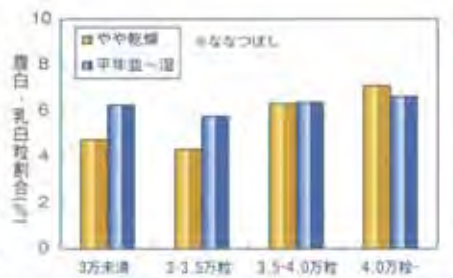


図 水田の乾燥状態と稈粒数別の蛋白・乳白粒割合 (04年 全農普及センター調査データ)

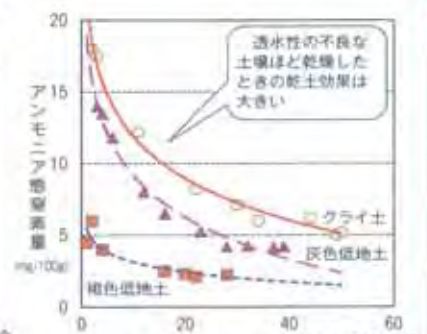


図 土壌別の乾土効果 (04年、上川農試)